



越前如く、片山西川の飛流
は、頗る穩~~た~~を踏むがやうで
る。僕はち~~と~~と~~も~~はあつが
仕事すうと直ぐさほまので
何もどがんとおんてなる社会
主父史も隆文館の印刷所が
ちがつあつては、こので遊く
あらたまるが事、日まなを
るうも、知れぬ僕のみ許も来
日でも、ゆけんば、あゝ、体魁が
よゝゝなれば、パレの機軸を許
して見たいと思ふ。クは、白紙は
堀のうま、ちが、海やば、取あゝ
よゝゝ、ちが、ん、らう

大久保村百人町八十二

幸酒造り